

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000176		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム大清水彩幸		
所在地	豊橋市東大清水町181-1		
自己評価作成日	令和4年3月9日	評価結果市町村受理日	令和4年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ガラスが多く死角のない見守りができる」をコンセプトに中庭を囲むように個室が配置され、日差しが多い為、施設内が明るい印象です。不安な入居者をガラス越しに早く発見できる事ができます。新型コロナウイルス予防対策の為、ユニットごとの作業、行事が多く、共同生活本来の家事活動は限定されています。コロナ前にはできていた季節行事や外出、地域での行事等、施設内を解放した高齢者サロン開催は再開の目途が立ちません。施設内での面会受入中止をしている為、感染状況に合わせ、現在、オンライン面会か窓越し面会を実施し、ご家族、入居者様の不安解消に努めています。また、併設の特別養護老人ホームと連携し、感染症予防対策、グループホーム入居後に状態悪化した際の移行を行い易いよう、情報共有や連携をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染対策を徹底して予防をしたことと振り返った。家族との交流も制限されたが、利用者の健康が守られ家族の安心に繋がりが信頼関係を深められた。地域交流や外出行事の自粛があっても、誕生日会や節分・ひな祭り等の節句行事、花見や園芸等季節を感じる取り組みや、おやつレク、運動レク等、利用者の日々の余暇時間の充実を図り、利用者の身体機能を維持し、元気で暮らし続けられる様に支援している。地域活動に関しても、大清水校区の行方不明者捜索模擬訓練への参加により、地域の同業施設とより連携関係も強化できるようになっている。地域の一員として根差し、厳しい環境下でも活躍を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念・方針を掲示している。毎日の朝礼にて、読み上げている。以前に比べ、職員も意識をしている。年度初めや新人職員の初日オリエンテーリングにて説明している。	理念は毎日唱和している事で職員全員が把握できており、安心安全に生活できる様に見守りを徹底し、歩行時等転倒なく生活できる様努めている。理念が日々の支援の中で活かされ職員一人一人に根付いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、今まで参加していた地域行事、高齢者サロンの会場開放は中止している。地域ケア会議への出席、行方不明者捜索模擬訓練(伝達訓練)には電話にて参加した。	コロナ感染対策での地域交流はできなかったが、地域の会合や他同業事業者との交流は書面や電話等で行い、連携体制や協働関係を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・感染症予防の為、従来の運営推進会議内での周知はできていない。ブログ、機関誌、毎月のお便りを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年、隔月年間6回のペースで開催していたが、感染症予防の為、招集せず、文書回覧としている。	コロナ禍であっても定期的に推進会議を実施し、議事録を郵送し運営状況を報告している。報告後に感染対策での問い合わせがあったりと、一方的な書面のやり取りではなく、相互に協働関係が継続できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者へ分からない内容や判断に迷うケースでは窓口で随時、連絡を入れ、事前相談や情報交換等を行い、解決するようにしている。	市長寿介護課や東三河広域連合とは、何かあれば相談できる関係を築いている。地域高齢者からの相談事を聞いた際には、包括へ報告して対応の引き継ぎをして連携を図る等、相互に信頼関係があり、協働関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、特養と合同で委員会内において環境整備、経過、事故報告を行い、随時、対応策の検討を行っている。オンライン、書面回覧など随時、感染状況により開催方法を変更している。	マニュアルを整備し、指針の下スピーチロック等、日常起こりやすい行為にはその都度注意をして職員への意識を持たせている。また、ベッド柵や車椅子上の転倒防止ベルトの使用等は安全面を重視し、家族の同意の得ている。実施後の様子を職員間で話し合い、常に必要性を検討し適切なケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で年間計画での勉強会を予定していたが、感染症予防の為、書面回覧が多くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で年間計画での勉強会を予定していたが、感染症予防の為、書面回覧が多くなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約を行い、書面内容に沿って説明を行い署名・捺印をしている。不明な点は、随時、問い合わせに応じる事ができるよう、家族への働きかけを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見、要望があった場合、朝礼・タレ、文書、システム等で伝達して、現場に反映するようにしている。	家族とは面会や受診時、物品の補充等で来所がある際に直接話をしたり、電話で意見や要望を聴く様努めている。利用者の要望や訴えがあれば家族に連絡し、欲しい物を届けてもらう等、家族間と連携を図り要望を叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議でその議題を取り上げ、検討・回答している。ユニットに限定した事はリーダーに繋げ、ユニット内で検討・実施をするようにしている。	管理者は、職員一人一人の様子を見て都度話を聴く機会を作り、意見や要望、悩み等を把握し、働きやすい環境作りに努めている。レクの提案は実践したり、掃除の方法の検討案を受け入れたりと、意見や要望は取り入れサービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規定に基づき、労働環境を用意しており、また、人事考課を年2回(夏季・冬季)行っている。キャリア手当の人事考課も年間1回実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は初日にオリエンテーションを又、1月ほど指導職員とに業務を行い、業務習得時間を設けている。指導力や年齢、力量、向上心の有無により指導方法や時間の取り方等、随時、面談を行い解消している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の会員になっているが、欠席する事が多い。また同事業形態の管理者の方に話しを随時、伺う事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居1～2か月は、生活情報が不足しているため、記録や申し送りを細かくしている。家族に入居前の自宅等での様子を情報収集している。声かけを多くし、訴え易い環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡窓口を一本化し、随時、相談や説明を行っている。また、入居後の経過や面会時に近況報告や希望の聞き取りを行っている。できる限りキーパーソンや家族構成、顔、関係性を把握するよう職員にも促しをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の暮らしの様子と入居後の生活環境を説明した上で、ご家族から「質問シート」を記入して頂いている。その情報を他スタッフに回覧し、個人を知る情報収集の手段としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の入退居、認知症進行に伴い、ユニット間で作業や活動などの参加が難しいものもある。業務ありきの傾向が多く、職員目線になりがちである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日プレゼント依頼や不足物品の持参を依頼し、玄関口で対応している。感染症予防からオンラインや窓越し面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響にて、一時、面会中止していたが、感染状況ごとにオンライン面会、屋外に面会室を増設して、ご家族が面会し易い場の提供、関わりを作るようにしている。	今年度は、外出全般を見合わせている。年賀状や暑中見舞い等のお便りのやり取りや電話の取次ぎ等の支援をして、馴染みの人との繋がりは継続できている。携帯電話の所持や新聞を取っている利用者もいて、入居前の生活習慣が引き継がれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	主な入居者の集まる馴染みの場所は食堂であり、常に人がいて、声がかかるため、安心した環境である様子が伺える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退居し、特養に移行したケースは、ご家族様が面会に来訪した際、声をかけ、少しでも不安解消や分からない事を特養相談員等に繋げるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取り、フェイスシート、家族への質問シートを自由に閲覧できるようにしている。直接ケアに活かせるように情報をまとめている。	入居時の聞き取りでその人の性格や生活歴を知ったうえで、職員は入居者との会話の中からその人なりをつかみ、職員同士で振り返ったり確認したり、推察や考察を加え、思いや意向を把握するようにしている。また表情や自分だったらどう反応するかを考えくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、フェイスシートにて記録している。個別記録表で特変事項や情報を集め、共有できるように努めている。日々の関わりの中で得た情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調面、精神面の変化を把握できるよう記録や処遇会議にて経過報告、情報共有できるようにしているが、情報共有が十分でなく、対応の統一が図れていない事がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的介護計画の評価、目標達成状況を報告する。また、新プランに際しては再アセスメントを行い、それを踏まえて随時、プラン立案をしている。	居室担当の職員を筆頭に、3か月ごとにプランと現状の確認を行い、書面で記録に残し、変化がなければ家族に確認をとったうえで6カ月ごとに見直しをしている。状態の変化があれば都度見直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼、夕礼、口頭等にて随時、共有している。口頭、書面にて引き継ぐが、もれや継続した記録がなされていない事がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、ご本人、ご家族の話を傾聴し、意向を把握するようにしている。それを踏まえ、施設でできることの説明し、出来る限りの選択肢を提示し、共に相談するという形でニーズ解消している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの予防対策にて、外部の受入を中止しており、以前よりも関わりや連絡頻度、交流の場面が減少している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の患者の場合は、毎週の内科往診にかかる事ができ内服処方も受けている。その他の科やその他の医療機関は、緊急時を除き、家族の付き添いで依頼している。	かかりつけ医を協力医としている。毎週往診はあるが、必要のない人への診察はない。専門の科の受診については家族の支援をお願いしている。歯科については必要な時に往診が得られる。併設特養の職員に看護師がおり、気になる点や受診相談にのってもらっている。夜間の急変についても指示を仰ぐことができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送りで、看護師に報告、指示をもらっている。日中も特変や経過等を随時、報告し、受診等の判断や助言、具体的指示をもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各入居者の看護サマリーを作成し、受入先の医療機関への受診や情報提供がスムーズに進むようにしている。退院時には、病院関係者に家族の希望を伝え、退院日程の調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の中で、緊急時対応における家族の意向や看取りになった際の指針の説明を行っている。医療が必要になった際のGHのできる事、できない事を分かり易く話すようにしている。重度化する前に要介護度が増した時期に特養移行したケースが多い。	入居時に事業所の方針を家族に伝え納得してもらっている。GHのできることには限りがあり、そこを補える特養の説明をしており、介護度があがった場合は、併設、または系列などの特養へ移行する入居者が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル(日中、夜間)を作成している。また、連絡系統や指示を仰ぐべき症状の基準、入院準備品など整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画に基づき、防災訓練、伝達訓練を計画している。今年度は新型コロナウイルスの影響で文書回覧とする事が多い。	夜間想定、昼間想定での避難訓練と、別に伝達訓練を行っている。入居者も参加している。消防立ち合いをお願いしているが、現状はまだ連絡のみである。三日分の水と食料の備蓄はある。停電した時に備え、発電機、カセットコンロ、ライト、ラジオの用意がある。近隣住民で事業所での対応を必要とする人の受け入れも考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛けや居室への入室など、プライバシーへの配慮や意識が乏しく、注意促しを随時している。記録物の保管、排泄の声掛け、報告等の工夫を随時、注意促しをしているが例年と同じく十分でない。	入居者の目につく場所での記録物の保管や記入に気を付けるよう管理者やリーダーが職員への注意喚起を行っている。居室へ入る時の声掛け、排泄時の声掛けなどに気を配るよう働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分で訴えができる方にはその思いを傾聴し、できるだけ寄り添うように各スタッフに求めているが、多動な入居者の対応、職員の経験不足など、業務に追われている為か、余裕が少ない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個人のペースよりも業務のペースに傾いている。職員の入れ替わりにより、業務習得が優先され、個人の理解が浅い状態である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替え、身だしなみについてできるだけ本人の希望や本人に合った物を用意するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症進行による判断力低下によりスムーズに摂取できない方に配膳順や食事提供の介助等、随時、検討し落ち着いた環境を整えるようにしている。	コロナ禍に加え、食中毒対策も考え、昼食は本部施設で用意されている。朝と夜はGHで作り、提供されているが、対策上入居者の手伝いは遠慮している。同様に食のレクは現在は中止している。だがその人の好み、形状、相性にあった席次などに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量のチェックをしている。水分チェックは水分不足の方のみ行う。便秘気味や食事摂取量低下の方には、栄養補助食品やポカリスエット等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に義歯洗浄と口腔ケアを行って頂いている。できない方は、職員が一部介助している。義歯は、職員で管理預かりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排尿・排便の有無や時間、サイクルを把握するようにしている。自尊心に配慮し、声掛けや状況に合わせた対応を変更する場合、随時、申し送りや話し合いで検討し、実行している。	排泄チェック表を利用している。本人の尿意、便意を基本とし、チェック表と照らし合わせながら適切な時期に声掛けをすることで自宅ではパットを汚すことが多かった人が汚さなくなった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を促すように食物繊維の多い献立や乳製品の提供を工夫している。排便2日以上の場合、下剤使用の対象者に挙げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望(入浴間隔や入浴頻度等)を聞き取り、個人ごとの入浴の目安を決めている。入浴拒否や急遽希望される方も入浴できる。勤務変更による人員薄い場合、中止する事もある。	週に二から三回入浴している。拒否の人には担当者や時間、日にちを変えて声掛けをし、気持ちよく入浴できるよう配慮している。柚子湯、しょうぶ湯など季節にあわせた変わり湯をしたり、好みにあわせ入浴剤を使用することもできる。自分で入浴できる人には見守り対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照度に気を配り、就寝・起床時間を個別で把握するようにしている。あまり無理に就寝・起床を促す事はしないが、安眠ができるように日中の体操や就前の温電法、不眠の際のホットミルクを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで服薬内容や副作用が分かるようにしている。受診や処方で新たな薬が出た場合、記録や申し送り等でスタッフと共有できるよう促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調に注意し、洗濯物たたみや食器拭き上げをして頂いている。また、パソコンや飲酒等の嗜好品の提供も継続し、月に数回の行事を企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響から外出行事や散歩等はしていない。	コロナ禍で外出の制限はあるが、中庭を活用し、外気にふれる時間、運動をする時間をもっている。季節が春を迎え、感染状況もおさまってきたら人通りの少ない事業所周りから散策をと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失しても良い金額をご家族に話した上で、自己管理している方もいる。日用品代、医療費などは、預り金で対応している。度々の訴えについては、随時の声掛けで不安感の軽減を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に知人・親族からハガキが来る方もいる。レクリエーションとして、暑中見舞い・年賀状を家族宛てに作成、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングコーナー、食席をエリア分けをして環境を作っている。談笑したり、座って作業を行う場になっていたり、季節飾りや行事予定掲示している。新型コロナの影響によりユニット間の人の出入りは中止している。	中庭を活用し、プランター園芸を楽しんでいる。季節にあわせた塗り絵や折紙、書道の作品を壁に飾っている。くつろげるソファもおかれ、食事の時とは別の入居者同士が隣り合ってテーブルを囲むこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファコーナーや分けてあるテーブルで気の合う方同士が過ごせるように工夫している。新型コロナの予防対策にて、昼夜ともにユニット間の行き来はしないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・ご家族と居室の間取りをタブレットや窓越しに見て頂いている。一覧を参考に家族に本人の馴染んだ物、安全な空間ができるよう相談している。また、	使いなじんだものを持ち込んでくつろげる部屋となっている。仏壇や椅子、中にはこたつを持ち込んで使用している人もいる。自分の作品を飾っている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用トイレや居室扉には、違いが分かるような形の違う小窓を設置やトイレである事やマークを貼っている。居室前には、本人の名前が表札風に付けてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000176		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム大清水彩幸		
所在地	豊橋市東大清水町181-1		
自己評価作成日	令和4年3月9日	評価結果市町村受理日	令和4年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
ヒアリング調査日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ガラスが多く死角のない見守りができる」をコンセプトに中庭を囲むように個室が配置され、日差しが多い為、施設内が明るい印象です。不安な入居者をガラス越しに早く発見できる事ができます。新型コロナウイルス予防対策の為、ユニットごとの作業、行事が多く、共同生活本来の家事活動は限定されています。コロナ前にはできていた季節行事や外出、地域での行事等、施設内を解放した高齢者サロン開催は再開の目途が立ちません。施設内での面会受入中止をしている為、感染状況に合わせ、現在、オンライン面会か窓越し面会を実施し、ご家族、入居者様の不安解消に努めています。また、併設の特別養護老人ホームと連携し、感染症予防対策、グループホーム入居後に状態悪化した際の移行を行い易いよう、情報共有や連携をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念・方針を掲示している。毎日の朝礼にて、読み上げている。以前に比べ、職員も意識をしている。年度初めや新人職員の初日オリエンテーリングにて説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、今まで参加していた地域行事、高齢者サロンの会場開放は中止している。地域ケア会議への出席、行方不明者捜索模擬訓練(伝達訓練)には電話にて参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・感染症予防の為、従来の運営推進会議内での周知はできていない。ブログ、機関誌、毎月のお便りを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年、隔月年間6回のペースで開催していたが、感染症予防の為、招集せず、文書回覧としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者へ分からない内容や判断に迷うケースでは窓口で随時、連絡を入れ、事前相談や情報交換等を行い、解決するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、特養と合同で委員会内において環境整備、経過、事故報告を行い、随時、対応策の検討を行っている。オンライン、書面回覧など随時、感染状況により開催方法を変更している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で年間計画での勉強会を予定していたが、感染症予防の為、書面回覧が多くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で年間計画での勉強会を予定していたが、感染症予防の為、書面回覧が多くなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約を行い、書面内容に沿って説明を行い署名・捺印をしている。不明な点は、随時、問い合わせに応じる事ができるよう、家族への働きかけを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見、要望があった場合、朝礼・夕礼、文書、システム等で伝達して、現場に反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議でその議題を取り上げ、検討・回答している。ユニットに限定した事はリーダーに繋げ、ユニット内で検討・実施をするようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規定に基づき、労働環境を用意しており、また、人事考課を年2回(夏季・冬季)行っている。キャリア手当の人事考課も年間1回実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は初日にオリエンテーションを、1月ほど指導職員とに業務を行い、業務習得時間を設けている。指導力や年齢、力量、向上心の有無により指導方法や時間の取り方等、随時、面談を行い解消している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の会員になっているが、欠席する事が多い。また同事業形態の管理者の方に話しを随時、伺う事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居1～2か月は、生活情報が不足しているため、記録や申し送りを細かくしている。家族に入居前の自宅等での様子を情報収集している。声かけを多くし、訴え易い環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡窓口を一本化し、随時、相談や説明を行っている。また、入居後の経過や面会時に近況報告や希望の聞き取りを行っている。できる限りキーパーソンや家族構成、顔、関係性を把握するよう職員にも促しをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の暮らしの様子と入居後の生活環境を説明した上で、ご家族から「質問シート」を記入して頂いている。その情報を他スタッフに回覧し、個人を知る情報収集の手段としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の入退居、認知症進行に伴い、ユニット間で作業や活動などの参加が難しいものもある。業務ありきの傾向が多く、職員目線になりがちである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日プレゼント依頼や不足物品の持参を依頼し、玄関口で対応している。感染症予防からオンラインや窓越し面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響にて、一時、面会中止していたが、感染状況ごとにオンライン面会、屋外に面会室を増設して、ご家族が面会し易い場の提供、関わりを作るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	主な入居者の集まる馴染みの場所は食堂であり、常に人がいて、声がかかるため、安心した環境である様子が伺える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退居し、特養に移行したケースは、ご家族様が面会に来訪した際、声をかけ、少しでも不安解消や分からない事を特養相談員等に繋げるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取り、フェイスシート、家族への質問シートを自由に閲覧できるようにしている。直接ケアに活かせるように情報をまとめている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、フェイスシートにて記録している。個別記録表で特変事項や情報を集め、共有できるように努めている。日々の関わりの中で得た情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調面、精神面の変化を把握できるよう記録や処遇会議にて経過報告、情報共有できるようにしているが、情報共有が十分でなく、対応の統一が図れていない事がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的介護計画の評価、目標達成状況を報告する。また、新プランに際しては再アセスメントを行い、それを踏まえて随時、プラン立案をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼、夕礼、口頭等にて随時、共有している。口頭、書面にて引き継ぐが、もれや継続した記録がなされていない事がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、ご本人、ご家族の話を傾聴し、意向を把握するようにしている。それを踏まえ、施設でできることの説明し、出来る限りの選択肢を提示し、共に相談するという形でニーズ解消している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの予防対策にて、外部の受入を中止しており、以前よりも関わりや連絡頻度、交流の場面が減少している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の患者の場合は、毎週の内科往診にかかる事ができ内服処方も受けている。その他の科やその他の医療機関は、緊急時を除き、家族の付き添いで依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送りで、看護師に報告、指示をもらっている。日中も特変や経過等を随時、報告し、受診等の判断や助言、具体的指示をもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各入居者の看護サマリーを作成し、受入先の医療機関への受診や情報提供がスムーズに進むようにしている。退院時には、病院関係者に家族の希望を伝え、退院日程の調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の中で、緊急時対応における家族の意向や看取りになった際の指針の説明を行っている。医療が必要になった際のGHのできる事、できない事を分かり易く話すようにしている。重度化する前に要介護度が増した時期に特養移行したケースが多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル(日中、夜間)を作成している。また、連絡系統や指示を仰ぐべき症状の基準、入院準備品など整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画に基づき、防災訓練、伝達訓練を計画している。今年度は新型コロナウイルスの影響で文書回覧とする事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛けや居室への入室など、プライバシーへの配慮や意識が乏しく、注意促しを随時している。記録物の保管、排泄の声掛け、報告等の工夫を随時、注意促しをしているが例年と同じく十分でない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分で訴えができる方にはその思いを傾聴し、できるだけ寄り添うように各スタッフに求めているが、多動な入居者の対応、職員の経験不足など、業務に追われている為か、余裕が少ない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個人のペースよりも業務のペースに傾いている。職員の入れ替わりにより、業務習得が優先され、個人の理解が浅い状態である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替え、身だしなみについてできるだけ本人の希望や本人に合った物を用意するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症進行による判断力低下によりスムーズに摂取できない方に配膳順や食事提供の介助等、随時、検討し落ち着いた環境を整えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量のチェックをしている。水分チェックは水分不足の方のみ行う。便秘気味や食事摂取量低下の方には、栄養補助食品やポカリスエット等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に義歯洗浄と口腔ケアを行って頂いている。できない方は、職員が一部介助している。義歯は、職員で管理預かりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排尿・排便の有無や時間、サイクルを把握するようにしている。自尊心に配慮し、声掛けや状況に合わせた対応を変更する場合、随時、申し送りや話し合いで検討し、実行している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を促すように食物繊維の多い献立や乳製品の提供を工夫している。排便2日以上の場合、下剤使用の対象者に挙げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望(入浴間隔や入浴頻度等)を聞き取り、個人ごとの入浴の目安を決めている。入浴拒否や急遽希望される方も入浴できる。勤務変更による人員薄い場合、中止する事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照度に気を配り、就寝・起床時間を個別で把握するようにしている。あまり無理に就寝・起床を促す事はしないが、安眠ができるように日中の体操や就前の温曇法、不眠の際のホットミルクを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで服薬内容や副作用が分かるようにしている。受診や処方で新たな薬が出た場合、記録や申し送り等でスタッフと共有できるよう促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調に注意し、洗濯物たたみや食器拭き上げをして頂いている。また、パソコンや飲酒等の嗜好品の提供も継続し、月に数回の行事を企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響から外出行事や散歩等はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失しても良い金額をご家族に話した上で、自己管理している方もいる。日用品代、医療費などは、預り金で対応している。度々の訴えについては、随時の声掛けで不安感の軽減を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に知人・親族からハガキが来る方もいる。レクリエーションとして、暑中見舞い・年賀状を家族宛てに作成、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングコーナー、食席をエリア分けをして環境を作っている。談笑したり、座って作業を行う場になっていたり、季節飾りや行事予定掲示している。新型コロナの影響によりユニット間の人の出入りは中止している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファコーナーや分けてあるテーブルで気の合う方同士が過ごせるように工夫している。新型コロナの予防対策にて、昼夜ともにユニット間の行き来はしないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・ご家族と居室の間取りをタブレットや窓越しに見て頂いている。一覧を参考に家族に本人の馴染んだ物、安全な空間ができるよう相談している。また、		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用トイレや居室扉には、違いが分かるような形の違う小窓を設置やトイレである事やマークを貼っている。居室前には、本人の名前が表札風に付けてある。		